

この次の考へ物

(一) いる時のいらぬもの、いらぬ時のいるものは何？

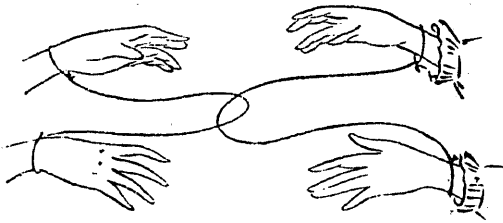
(二) 世の中に、真直でたてぬものは何？

右どちらにも 家の道具。

(三) 頭がなくて帽子あり足あれど靴なし、何？

右植物の名一つ。

(四) 下の様に、二人が紐をやり違ひにして、両手にしぼりそれから紐を切らないで、離す法は？



家庭

家庭の愉快は何邊より来る？

神門とも



其人の氣質が平穩で、いつも機嫌界がなくて、朝も夕も變りのない、親切な、同情のある人に接しますと、實に春日の温風に吹き撫でられるやうで、至て心地よく、少々心に心配を有て居てもかゝる人に會ひますれば、其心配も軽くなるかの如く思はれますが、いつも、不平と不愉快に満されて居る人に會ひますと、誠に心持の悪いもので、始は

あゝ氣の毒だと思て居りましても、後には平和なる心も、亂されて、何となく不愉快になります、又一寸他家を訪問するにしても同様、一同が樂しげなるは、何となく、なつかしい心地せらるゝものであります、が、一致のない、不愉快なる家へは御義理一遍の訪問は、據ないとしても、つひく面倒になり、行きたくないやうになるものであります、他より行くものでさへ、かやうでありますから、其内の人の心持は推量することが出来ます。

己一人、不愉快がるのでも、誠に、いやなものでありますが、之が決して、自分一人では濟みません、是非、両親があり、兄弟があり、血を分けぬ娘があり、勞を售るの雇人と云ふものがあります、それが、皆誠に、感じ易い情を有て居りますから、造作なく、是等の人に傳染して悪感を與へ、

其形作る家庭をしてよし、不愉快とまで行かずとも、樂しからぬ家庭としてしまひます、子供の樂しからぬ様子、雇人の面白からぬ顔を見ても、厭やなものであるのに、是が、其主婦でありしならばいかに、或は主人でありしならば如何に、他のものは感ずるでありましやうか、家内のものは、沈みかへるべく、他より訪問したるものは、早々、逃げ出したうなるであらうと思ひます、されば、自分の爲にも、亦人の爲にも、常に、愉快なる心でありたい又、愉快なる家庭でありたいと思ひます。

さらば、どうして愉快にすることが、出来ましやうか、奈邊からその愉快は來るものでありましやうか、私如きものには、とても、是ならば、きつと申すやうなことは、云ふことが出来ませぬ

が、試みに、私の考へて居ることをこゝに述べて見せしやう。

一、己の責任を盡すこと、誰でも日々己のなすべき職分を有て居ります、則子供が學校へ行き、よく勉強するのも、卒業後の令嬢が、家にありて、日々定まれる仕事をなし、父母長上に奉仕するのも、主婦が皆に満足を與へて、よく一家を料理するのも、皆其責任を盡すのであります、其事の進歩不進歩は、元より其人の才能の度によること故、致し方もございませんが、只誠實に自分のすべき事を、出来る丈よく、しやうとすることは、誰にも出来ることでありますから、之を人を見て呉れやうが、呉れまいが、賞せられやうが、誹られやうが、それには頓着なく、心に満足し得らるゝ丈に勉むれば、自然

愉快になります、併し、もし其結果につきて非難があるならば、それは方法によりては、よき成績の上るもので、人が之を知て云ふのもありますから、注意せねばならぬことであります、之が爲、愉快の多分を失ふと云ふことはないと思ひます。

さて、其職分を誠實に勉むるにつきましましては、一年の計は元日にありますと申す如く、一日のことも、朝起き上り、一通り、用意が済みましたらば、その一日になすべき事柄、順序及方法につきて、大凡の考を定め置くことが必要であります、これは、一寸面倒のやうであります、目的のあることは敏速に成就せしむることが出来ますから、少しの休息の間に致して置きたいものであります、又床に就きます前に、終

日其致しました事について、一考致しますことは、誤を再びせざる爲に、必要なることだらうと思ひます。

二、己を怒する心を以て人を怒すると、己を愛する如く、他を愛する人は誠に稀でありませぬ、實に自分程大切にすることはありませぬが、己の事ばかり考へて、他のことを考へざるのみか、かくして呉れそうなもの、考へるやうでは、人も同様でありますから、到底満足することは出来ません愉快なる心にはなれませぬ、彼の人はかくありたしと望まるゝであらうと思ひやりて之に満足を與へ、愉快ならしめるやうと勉めますれば、誰でも、大抵一様の心を持って居るものでありますから、先方も亦其心を持って仕向けて参ります、則互に同情を以て、相

接し、相助け、相慰めるやうにすれば、人の仕向につきて腹立つこともなく、自分も己のなすべきことをなし終へて、誠に楽しいものであります、色眼鏡をかけて、人を疑つたり、少しのことに腹立つたりせず、可成的、寛仁なる心を以て人に接することは愉快を得る爲には、最必要でありますまいか。

三、或趣味を有すること、

文學に技藝に、

其撰むべき範圍は、非常に廣うございませぬが、少しの時間にも、如何なる場處にても得らるる如き種類のものにつきて、趣味を有することは、其人の爲に大切なること、思ひます、假令一寸仕事と仕事の間に僅かの時間ありとせんか、其間に於て、讀書するとか、或はつひ、庭前に咲ける花の一枝をとりにて之を挿すとか、盡

さる、得易き者を愛するの習慣あらば、無益の  
ことを考ふることもなく、其間に心を樂しまし  
むることが出來ます。只徒らに、時を費すこと  
は、誠によくないことであります。又其嗜好は  
可成的己の品致を高めるに便益あるものを撰ぶ  
ことは言はずもかなのことであります。

私は先づ、右の三ツ位で、一個人としても、一家  
庭内の一人としても、自分も人も愉快にすること  
が出來はすまいかと思ひますが、如何でありまし  
やうか、皆様も御試なさつて御批評を願ひ度と思  
ひます。  
嘗て私の見聞した家庭の内にも、愉快そうなのと、  
不愉快そうなのと、ありますから、次號には其比  
較をして見ましやう。

風ふけば川邊涼しくよる浪の  
たらいへるべき心地こそせぬ

### 過ぎたる躰方

ふ　み　子

近頃家庭教育のよひ聲がだん／＼高くなつてま  
りまして、前よりも世の中の人々が、これに注意  
する様になつてまゐりましたのは、まことに喜ば  
しい事でございます。

けれども廣い世の中にはまだ／＼家庭教育など  
には少しも氣をつけないで、ほり放しにして居る  
人もあります。またあまり氣をつけすぎて却て幼  
児がわるくなつて居るのもあります。

また中には手本にしてもよい程、よい家庭教育